

今回、本誌を編集するに当たり興味深いことがありました。目次をご覧ください。執筆者に「山田英夫」氏のお名前が2つ。まず申し上げたいのは、これは編集上の誤植ではありません。また同じ方が2点書かれた訳でもありません。たまたま同姓同名のお二人にご寄稿いただきました。この奇遇に小さな興奮を覚えたのは、編集担当だけでしょうか。

さて、『物流問題研究』55号は「物流課題解決の新たな視点」を特集しました。国分の山田英夫様には環境負荷低減の次の一手を、デサントの鈴木利忠様にはスポーツアパレルビジネスの現場から、J I L Sの吉本隆一様には業界を俯瞰した物流課題と解決の視点をお示しいただきました。全日本トラック協会の山田英夫様には企業経営の熟度という新しい視点から、トラック事業経営の改善ポイントをご紹介いただきました。本誌の限られた誌面の中からも、物流の効率化や環境改善や経営改善の取り組み、それに対する処方箋が数多く検討・実施されていることを確認できたのではないかと思います。

また今回号から、本学で進めていこうとしているロジスティクス分野の産学連携コンソーシアムについての取り組みをご紹介したいと思います。22年度の活動としては、コンソーシアムを構成するメンバーの方々などから、本学のロジスティクス関連実践講座の客員講師として、実学に基づいた講義をいただきました。我々教員に対しても実学・現場の視点に立った考え方や実態をご教示いただき、改めてお礼申し上げます。本誌は年間2回発行しますので、コンソーシアムの活動もあわせて掲載する予定です。

また本誌の掲載論文ならびにコンソーシアムのタイムリーな活動情報は、本学のホームページにも掲載いたしますので、是非お立ち寄り下さい。(http://www.rku.ac.jp/index.html)

(小野)